

[課程一2]

審査の結果の要旨

氏名 岩崎 りほ

本研究は、市町村保健師の職業的アイデンティティの構造を明らかにすることを目的に、首都圏内の保健師に半構造化インタビューを実施し、グラウンデッド・セオリー・アプローチによる質的分析を実施した結果、下記の結果を得ている。

1. 市町村保健師の職業的アイデンティティの概念として、《直接的な対人支援を通して保健師であることを実感する》、《行政組織の中で働くことで保健師であることを実感する》、《よりよい地域づくりのために働くことで保健師であることを実感する》の三つのアイデンティティが抽出された。
2. 市町村保健師はこれらのアイデンティティの安定、揺らぎを経験し、かつ、アイデンティティ同士で共存・対立・葛藤があった。
3. 対立・葛藤がある理由の一つとして、類似した状況・状態に対しても、「保健師であることを実感する」場合と「保健師であることを実感しない」場合があるというアイデンティティの両義的な特徴を持つと推察された。
4. コアカテゴリーとして、[対人支援をする自分と行政組織で働く自分が共存・対立・葛藤しながら、よりよい地域づくりのために働くことで保健師であることを実感する]が示された。

以上、本論文は、日本の市町村保健師の職業的アイデンティティの概念を質的な研究手法を用いることで明らかにした初めての研究である。本研究は、市町村保健師の職業的アイデンティティの構造を明らかにしたことにより、アイデンティティ形成のための方策を具体的に提示するものである。保健師は日本の地域保健従事者の最大多数を占めるため、これらの知見は、日本の今後の公衆衛生看護学、地域看護学のみならず、公衆衛生学の発展に資するものと期待され、学位の授与に値するものと考えられる。